

## 第2回大阪市建設事業有識者会議での建設事業評価の見直し検討に関する主な意見等

## ■事業再評価

## 【たたき案①：事業進捗率が90%事業については、建設事業再評価の対象外】

(水谷委員)

- ・90%以上はいいと思うが、最後に何か残っていつまでもできていないと問題があるのではないか。90%以上でほぼ予定通りに完了の目途がたっているという定性的なものを加えていけば、再評価の対象外としてもいいのではないか。

(角野委員)

- ・90%以上のものは、これでいい。ただ、90%以上という状況が何年もつづくような場合には、何らかの確認が必要。

(高瀬委員)

- ・硬直状态的なものに関して、何か評価をやり直すという形になるのか

(塚口座長)

- ・街路などは、90%以上の事業進捗なら、歩道が未整備だが車道は通っており、ほとんどできていると考えられると、今後の社会資本整備として、歩道など整備に水を差すことにならないか。
- ・90%以上でほぼ完成の目途がたっているものは、会議での議論は必要ではないと思う。

## 【たたき案②：前回の再評価からの進捗が予定通りである事業については、再評価を簡略化】

(水谷委員)

- ・経済情勢の変化がないという前提が、大きく変化していないという点を加えた上で、必要性が高くて、予定通り進んでいるということで、B/Cも変化しないというのが必要になると思う。

(角野委員)

- ・社会経済情勢の変化が著しいかどうかを誰が判断するのか。

(高瀬委員)

- ・予定通り進捗したかどうかについて、各局担当者、私たち（有識者）、大阪市が考えられる予定通りが、若干違うような気がする。この予定通りというのが、非常に難しいメルクマールであり、何か工夫をしていただきたい。

(松島委員)

- ・予定通りかどうか、社会経済情勢の変化かどうかをみるための何か基準がある方がいいのではないか。

## 【たたき案③：毎年、前年度の事業の取組み状況の振り返りを行い、自己評価を実施】

(角野委員)

- ・毎年確認していくという意味で、これらは当然やるべきことだったと思う。

(松島委員)

- ・ペーパーワークだけが増えることは避けた方がいいのではないか。各局で自己評価をやっているのであれば、あえて統一フォーマットで毎年だすこともなく、毎年やっている内容が5年毎の評価に反映されているということだけ担保できればいいのではないか。

## ■大規模事業評価

### 【たたき案：大規模事業評価の対象事業費を、10億円以上とする】

(水谷委員)

- ・重要なポイントは、必要なものが遅れたり、なかなか進まない、問題が発生しているものが本当に大丈夫かということをチェックする必要があるだろう。
- ・数だけ増えて、殆ど順調に進むものも、まな板にのせて時間だけ取ってしまうことは、どうかと思う。

(角野委員)

- ・新規施策等に伴うものに限定し、2・3件ということであれば基本的に異存はない。

(高瀬委員)

- ・(評価対象から除外する)単なる建替えの中でも、構造上の変更が伴うものや面積が増えるもの、規模が大きく変わるものは、対象となるのかというのを少し詰めておかないといけないのではないか。単なる建替えでも、結構大きな事業費、20億円ぐらいかかっているものがあるので、そのあたりをどう考えているか確認したい。